

「鉄道特性活性化PT」第3回会合

地域鉄道の課題や鉄道活性化の可能性について意見交換！

JR連合は、10月9日、議員会館で鉄道特性活性化プロジェクト（以下PT）第3回会合を開催した。

会合には、座長の三日月大造衆議院議員（滋賀3区）、アドバイザーの専修大学太田和博教授、単組の代表者、JR連合役員ら19人が出席し、活発な意見交換を行った。

冒頭、主催者を代表し、JR連合松岡会長は「鉄道を取り巻く環境は人口減少や高齢化社会の進行など厳しさを増しているが、鉄道の発展に寄与する政策立案を行っていきたい」と決意を述べた。



議事では、まず、国交省鉄道局から地域鉄道の現状と課題について説明を受けた。地域鉄道とはJRを含まず、三陸鉄道のような、地域密着の中小民鉄ないしは第三セクター方式で経営している全国91社を指す。鉄道局からは、輸送人員が年々減少し極めて経営が厳しい中鉄道施設の老朽化対策などに取り組んでいる状況を説明するとともに、公的支援として地域公共交通確保維持改善事業や地方鉄道支援に対する地方財政措置を措置している旨の説明、さらには各事業者の地域を巻き込んだ事例紹介を頂いた。JRと地域鉄道のフレームワークは根本的に異なるものの、より地域に密着し、地域に愛される鉄道を目指すためにも、極めて示唆に富む意見交換を行うことができた。

その後、事務局から高速道路料金問題に関わる動静と論点整理について説明を行った。JR7社に影響する極めて重要な問題であるとの認識のもと、持続可能な総合交通体系の維持に向けて、各単組と連携を密にした取り組みを行っていくことを確認した。



最後に、鉄道特性化の基本戦略について事務局から提起を行い、①地域に密着した地域と共に発展する戦略、②都市間輸送の更なるブラッシュアップ、③他交通機関との連携強化、④環境変化に適合した戦略、⑤海外輸出戦略を柱とした議論を進めていくことを確認した。

J R連合は、鉄道に働く労働者が集う集合体として、より一層活力のある、魅力にあふれた鉄道産業を創り上げていくため、そして鉄道の更なる活性化を図るべく議論を進めていく。